



GPS/JIPS 安全性要約書

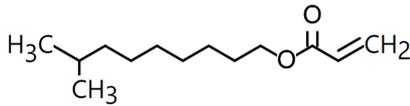
1. 製品名 (PRODUCT NAME)

FA-111A

2. 製品の概要 (GENERAL STATEMENT)

FA-111Aは当社が開発した単官能型機能性アクリレートであり、電子部品・塗料・接着剤・建築用シーラントなどに使用されるアクリル系ポリマーの重合性モノマーとして、または、UV・EB硬化型インキの希釈モノマーとして使用されています。現在のところ、本製品が人体に対して明らかな有害性を持つという報告はありませんが、皮膚や粘膜に刺激を与える可能性があるため、取扱いには十分な注意が必要です。作業時には、室内で取り扱う場合は密閉された装置や局所排気装置を使用し、皮膚や眼に触れないように適切な保護具を着用してください。水生生物に非常に強い毒性が示唆されます。環境への影響を最小化するために、漏洩防止対策をしてください。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
化学名又は一般名	アクリル酸イソデシル
別名	イソデシルアクリレート
純度(含有率)	98%以上 (アクリル酸エチル0.8%未満(製品の特性上含有量に幅が生じる)、デカノール 1.5%(代表値))
製品名	FA-111A
CAS 番号	1330-61-6
その他番号	官報公示整理番号 化審法番号:2-990 安衛法番号:-
化学式等	C ₁₃ H ₂₄ O ₂
構造式	
出典・備考	株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

主な用途	合成樹脂、UV・EB 硬化型インキの希釈モノマー
------	--------------------------

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

本製品は、淡黄色を帯びた透明な液体で、特有な臭いを有しています。直射日光や熱の影響を受けやすく、自己重合反応を起こすことで暴走反応に至る危険性があります。特に、一級または二級アミンの化合物との混合は、常温下においても発熱を伴う重合反応が誘発される可能性があります。また、過酸化物質と混合した場合には、その過酸化物質の分解温度以上で重合が開始されます。これらの危険性を考慮し、取扱いには十分な注意が必要です。直射日光や高温を避け、冷暗所で密栓し、酸化性物質、有機過酸化物質から離して保管してください。

物理状態	液体
色	淡黄色透明
臭い	特有の臭い
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし

可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	135°C(クリープラント開放型)
溶解度	水に殆ど不溶、有機溶剤には易溶
蒸気圧	25°Cにおける蒸気圧は外挿値で 13.3Pa 以下と推定される。
相対密度	880kg/m ³ (25°C)
その他情報	引火点以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2, 9,10項

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない(非該当)
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項
<p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっておりません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p>	

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
水生環境有害性 短期(急性)	区分1 水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,12項
環境中の運命・動態	
土壌中の移動性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
PBT/vPvBの結論	情報がなく判断できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第12項

8. ばく露 (EXPOSURE)

詳細	ばく露の可能性
作業員ばく露	<p>閉鎖系バッチでの合成や調合作業においても、メンテナンス、サンプリング、装置故障の際などに、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性が あります(PROC3)。</p> <p>バッチ及びその他のプロセス作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出及び装置故障の際などに、作業員への経皮膚・吸入ばく露の可能性が あります(PROC4)。</p> <p>塗料、有機系洗浄剤、接着剤などの、工業的スプレー作業において、エアゾルの発生を伴うことが予想され、経皮・吸入ばく露の可能性が あります(PROC7)。</p> <p>小規模の試験研究施設での試薬の使用においても、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性が あります(PROC15)。</p>
消費者ばく露	<p>当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。</p>
環境ばく露	<p>本製品は、通常、閉鎖系プロセスで製造・使用されるため、環境への排出は限られますが、製造工程で主に大気および水環境へ放出される 可能性が あります(ERC1)。</p> <p>この製品の調合・混合工程では、主に大気および水環境へ放出される 可能性が あります(ERC2)。</p> <p>塗装やコーティング用接着剤、織物繊維と革製品の塗料などの専門的な用途では、加工助剤を含まない物質が物理的または化学的に充填剤(原料)内または上に結合されることがあります。また、土壌環境へ放出される 可能性が あります(PROC5)。</p> <p>熱可塑性物質の製造や重合プロセスにおけるモノマーの工業使用では、大気および水環境に排出される可能性が あります(ERC6c)。</p> <p>熱硬化性樹脂とゴム製造、重合プロセスにおける化学物質(架橋剤、硬化剤)の工業使用では、主に大気に排出される可能性が あります(ERC6d)。</p> <p>塗料やコーティングに使用する接着剤、織物繊維の染料などの専門的な用途では、加工助剤を含まない物質が屋外で使用される際に、物理的または化学的に材料内部や表面に結合されることがあります。これらは主に大気や水環境に排出される可能性が あります。(ERC 8f)</p> <p>製品(例: 建材、家具、電子機器(ケーシング))は、屋内での長期使用により、大気や水環境にわずかに放出される可能性が あります(ERC11a)。</p>
注意事項	<p>他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。</p>

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8 項のばく露シナリオによる作業員、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

詳細	推奨するリスク管理措置
作業員	<p>技術的対策・局所排気・全体換気:</p> <p>作業の際は、皮膚や眼に触れないように適切な保護具を着用し、局所排気装置を設置して適切な換気を行ってください。また、作業環境許容濃度の勧告値が設定されている場合は、その値を下回る環境濃度となるよう管理・制御してください。</p>

	<p>許容濃度： 当該製品については、ACGIH(アメリカ産業衛生専門家会議)により、TLV-TWA(時間加重平均値)5ppm、TLV-STEL(短期間被曝限度値)15ppm(アクリル酸エチル)が設定されています。また、厚生労働省より、濃度基準値(ばく露に関する基準)として 8時間濃度基準値：2ppm(アクリル酸エチル)が公表されています。これらの値を下回るように、管理・制御してください。</p> <p>保護具： 作業に当たっては、有機ガスの吸入による健康被害を防ぐため、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、または空気呼吸器を着用してください。また、取扱う物質が皮膚や目を傷つける恐れがあるため、不浸透性の保護手袋、保護眼鏡、防災面を着用し、不浸透性の保護衣、保護長靴、前掛けで皮膚や身体を保護してください。</p> <p>【リスク管理措置の例】 ばく露の機会のあるバッチおよびその他のプロセスでの使用：局所排気装置) 工業用スプレー：局所排気装置および呼吸用保護具(捕集率 95%)</p> <p>注意事項： 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。</p>
消費者	当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。
環境	環境に悪影響を与えないよう、河川や下水に直接流したり、環境中に放出したりしないでください。
特記事項(漏出時の緊急措置など)	<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 回収作業時には、保護メガネ、手袋等の保護具を着用し、有害物質の吸入や皮膚への接触を防いでください。大規模な漏出が発生した場合は、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止し、風下側での作業は行わないでください。</p> <p>環境に対する注意事項： 本製品が河川、下水、排水などに流れ込んだり、土壌に浸透したりしないように注意してください。少量の漏出の場合は、乾燥砂やウエスで吸収し、空の容器に回収してください。大量の漏出の場合は、土砂などで流れを止め、空の容器に回収してください。水上に流出した場合は吸着マットなどを使用して回収してください。回収作業中は、近くの火気を速やかに取り除き、火災に備えて消火器具(粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂)を用意してください。大規模な火災の場合は、泡消火剤などで空気を遮断することが効果的です。棒状の水を使用すると火災が拡大し危険な場合があるので、使用しないでください。火災時には有毒ガス(一酸化炭素など)が発生する可能性があります。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動してください。火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止してください。消火作業は必ず自給式呼吸器などの保護具を着用し、風上から行ってください。</p>
注意事項	通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

国際機関、各国当局によるレビュー	
IPCS (国際化学物質安全性計画)	国際化学物質安全性カード 情報なし

OECD (経済協力開発機構)	高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画 情報なし
NITE-CHRIP (NITE化学物質総合情報提供システム)	https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput
政府によるGHS分類結果	情報なし

11. 法規制情報／GHS分類情報・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

適用法令	規制状況
労働安全衛生法	表示対象物質(アルカノール(炭素数が10から16までのもの及びその混合物に限る。)(令和8年4月1日施行) 通知対象物質(アクリル酸エチル0.8%未満、アルカノール(炭素数が10から16までのもの及びその混合物に限る。)(令和8年4月1日施行)
化審法	優先評価化学物質(アクリル酸エチル)
消防法	危険物第4類 第3石油類(非水溶性液体) <指定数量; 2000L>
毒劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第一種指定化学物質 (アルカノール(炭素数が10のものに限る。))1.5%(代表値))
国連分類	Class 9
国連番号	UN3082

GHS 分類情報

物理化学的危険性	引火性液体: 区分に該当しない
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性): 区分1

ラベル情報

絵表示又はシンボル	
注意喚起語	警告
危険有害性情報	水生生物に非常に強い毒性(H400)

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

会社名	株式会社レゾナック 五井事業所
住所	〒290-8567 千葉県市原市五井南海岸14番地
担当部門	樹脂材料開発部 中村 武史
電話番号	0436-23-8714(担当部門) FAX番号 0436-22-2236

13. 発行・改訂日、その他の情報

(DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2024年10月9日

改訂:

改訂日	改訂項目	改訂箇所	版

記載の情報は、2024年4月3日 改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。